

# 英 語

堀 井 洋 一

## 1 英語における学びを豊かにする聞き合い

コミュニケーション能力の基礎を培う

研究紀要第66集  
参照

\*1 インタラクション  
相互作用言語のやりとり  
「英語表現への気づき」

異文化理解  
他者理解

自己表現

本校の英語の目標は、「コミュニケーション活動を通して、英語への関心を高め、聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を培う」である。具体的な児童の姿として、「英語表現を聞いたり話したりする姿」「英語表現を活用し、他者と関わり相互理解を深める姿」「獲得した言語や異文化への興味をさらに深める姿」と表すことができる。

本校の英語では、英語表現を使って思ったことを、聞いたり伝えたりするなかで、英語への興味を高め、異文化理解や他者理解を行うことを「聞き合い」と定義する。「コミュニケーション能力の基礎を培う」ためには、英語によるインタラクション\*1を通じて、友だちのことや外国のことなどに触れることが不可欠となる。

子どもは、英語によるインタラクションにより、これまで触れたことのない新たな英語表現に気づく。(以後、「気づき」と表記)そして、その表現を自分が既に触れている表現と比較しながら理解し、自分の表現に取り入れる中で英語表現を増やす。また、相手の話す内容を自分のこれまでの生活経験などと比較しながら共通点や類似点、相違点を見つける中で、新たな視点を持ち、これまでの考えを改めることを再構成ととらえる。これらを通して、異文化や他者への思い(以後、「思い」と表記)を深める。

このように、他の表現から新たな英語表現(語彙や言語形式)に気づき、英語表現を増やしたり、異文化理解や他者理解を深めたりすることを英語における豊かな学びととらえ、学びを豊かにする聞き合いを次のように定める。

慣れ親しんだ英語表現を 自己表現するために活用しながら 新たな英語表現に気づき 異文化や他者との比較から 自他への思いを改めて認識する 聞き合い
--------------------------------------------------------------------------

## 2 聞き合いのために

### (1) 子どもにつけたい態度

#### ① 英語表現に触れたいという興味・関心

聞き合いの素地として、英語表現そのものに対する興味・関心をもっていることが前提となる。「どういう意味なのか。」「英語ではどう言うのか。」という興味が新たな英語表現の「気づき」に不可欠である。

#### ② 積極的に話したい、伝えたいという意欲

小学校段階では「やってみよう」という思いが大きな要素となる。慣れてきた英語表現を使って言いたいという意欲が表現の工夫につながる。

#### ③ 相手のこと(異文化、他者)を知りたいという思い

異文化や他者に対する興味・関心から、伝えたい、知りたいという思いが生まれる。この思いでコミュニケーション活動を行うことで自他の比較や自己への再認識が起こる。

#### ④ 自己表現の工夫への意欲

どのような単語や言語形式が適切か考えたり、表現を獲得・選択しようとしていたりする態度をもつことで新たな英語表現に気づくことができる。

## (2) 子どもに共有させておきたいこと

- ① 基本となる英語表現に触れること、英語の音声に慣れること  
相手の伝えたいことを受け止めるために必要となる言語形式や単語に触れ、音声に慣れていることが必要となる。
- ② 聞き合う目的（自己表現につながる内容）  
何のために伝えるのか、聞くのかという目的が明確になっていることが必要である。このことで自他の比較が起こるとともに、相手の英語表現を聞きながら自分の英語表現について考えたり見直したりすることになる。

## 3 関係づけ再構成するための手だて

### (1) 目的に応じたグループ構成

ペア  
少人数グループ  
学級全体

友だちの英語表現を聞いてそのよさに気づく、たくさんの友だちの思いや考えを聞いて自分と共通点や類似点、相違点を比較する、友だちの英語表現をまねて自分の表現に取り入れるなどの目的に応じて、ペア、少人数グループ、学級全体など学習集団の人数や形態、編成方法を工夫する。

グループ構成の工夫により、話す量や聞く量の確保、多様な英語表現や内容に触れるという効果がある。このことが他との比較につながり、さらには、「気づき」や「思い」への再構成へと向かう。

### (2) コミュニケーション活動の工夫

満足感

\* 2  
タスク活動  
学習者が言語形式を主体的に選択し、自然なコミュニケーションを通して、与えられた課題を遂行する活動

ワークシート  
内容の選択

「伝わった」という満足感を感じ、「気づき」や「思い」をもつことができるようにするため、インタビューやスピーチ、タスク活動\*2など多様な方法を取り入れ、その内容を工夫する。

これらの活動の際にはワークシートを活用する。自他の共通点や類似点、相違点などをメモしながら活動することにより、自他の比較が行えるようにする。

また、自他への思いを再認識させるためには、表現する内容への興味・関心が重要である。そこで、扱う内容を子どもにとって身近であり、伝え合うことに意味を感じることができるとする。子どもが日常生活でふれることが多いもの、自己表現に関するものなど、興味・動機づけが起こる内容を選択し、他との比較を促す。

### (3) 「英語表現への気づき」や「異文化や他者への思い」の明確化

シェアリング

ふりかえりの視点

共有・共感

「気づき」や「思い」を明確に意識させるために、シェアリングの場を設ける。互いの「気づき」や「思い」を聞き合うことにより、子どもは自他の比較をする。その際には、ふりかえりの視点を明確にすることが必要となる。そのために学習のねらいにそった観点を示した評価シートやふりかえりシートを活用する。

また、内容や表現の見直しにつながるようにグループ、学級全体などのシェアリングの形態、活動後や活動の中間など取り入れる場を工夫する。

### (4) 自分の英語表現を見直す場の設定

表現方法の見直し

活用

子どもは、コミュニケーション活動を通して「気づき」や「思い」をもつ。そこで、他の英語表現のよさや新しく発見したことを活用して再度、自分の英語表現を見直す機会を設ける。

言いたいことが伝わるように、友だちが使っている英語表現を参考にして表現を直し、新たな内容や表現方法を取り入れることで「もっと伝えたい」という意識が高まり、新たな英語表現の「気づき」を持つことが可能となる。

## 4 実践例

3年生の実践「自こしょうかい（わたしのすきなもの）」と「わたしの誕生日」をもとに、手だてと子どもの姿について述べる。

### (1) 目的に応じたグループ構成

#### ① 誕生月別グループ（少人数グループ）



資料1 インタビュー活動をもとにした  
グループ編成

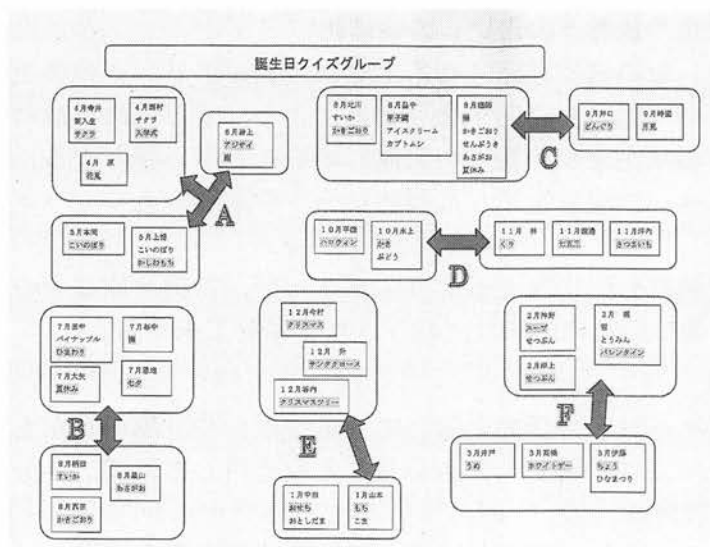
「わたしの誕生日」では、自他の比較から誕生月の特徴を考え、誕生月への「思い」をもつことができるように、誕生月別の少人数グループを活用した。グループ編成の際には、“When is your birthday?” “My birthday is … .” を使って互いの誕生日を質問して同じ誕生月同士で集まるアクティビティーを取り入れた(資料1)。このアクティビティーで、子どもは“When is your birthday?” “My birthday is … .” を繰り返し言うことになり、誕生日の尋ね方や月の言い表し方に自然に慣れることができた。ふりかえりでは、「わたしと同じ8月がたん生日の人がたくさんいてうれしかったです。」「みんなのうまれた月がわかってうれしかった。」「19人と話せてうれしかった。」「AさんやBさんの誕生日を聞いたことがないから聞きたい。」といった感想が聞かれた。このように、コミュニケーション活動を通してグループ編成を行うことにより、子どもは多くの友達と英語を使ったやりとりをし、友達に対する「思い」を持つことができていた。

誕生月別グループでは、それぞれが考えた問題とヒントを持ち寄り、誕生月の特徴をよく表している問題や答えを分かってもらえるヒントは何かを話し合わせた。子どもは、事前に考えた問題やヒントを出し合いながら自分と友達の問題を比べ、問題やヒントを選択していた。同じ誕生月で集まっているため、イメージするものが共通していることが多く、問題作りに友達の考えを反映させることができた。

4月グループでは、A児がサクラと入学式が答えとなる問題、B児がサクラと新入生が

答えとなる問題を考えていた。この2人は問題が重複したため、互いのヒントを聞きながら相談し、A児が入学式、B児がサクラを選択した。B児はサクラのヒントとして pink, red, flower の3つを考えていた。

ヒント3つのうち2つが色に関するものであったが、ヒントを聞き合う中でA児が考えていた a big tree と自分のヒントを比較し、red を tree に変えていた。色という同じジャンルのヒントから違うジャンルのヒントに変更し、英語表現の幅を広げることができていた。



資料2 誕生月別グループ

グループで一緒に問題を考える活動では、意見が言いやすく互いの意見がグループの意見として取り入れやすいという点から、適当な人数は3名程度と考えた(資料2)。実際には誕生日別でグループを編成したため、8月は6名、6月は1名と人数にばらつきがあった。そこで、8月の6名を3名ずつの2グループに分け、6月の1名は5月グループの2名と一緒に活動できるように編成した。6月生まれのC児は、誕生日を聞き合うアクティビティーでグループが自分1人であることに不安を感じていたが、5月と一緒に became ことで安心して活動していた。

また、試しのクイズでは2月と3月など近い月のグループでクイズを試した。このことで月ごとの違いが明らかになる反面、季節が近いと月の特徴も似ていることにも気づいていた。共通点や類似点、相違点に気付くためには人数以外の配慮も有効であった。

## ② グループの再編成(ペアから少人数グループ、学級全体へ)

「自こしょうかい(わたしのすきなもの)」では、好きな色、スポーツ、食べ物のインタビューを行った。インタビューでは、英語表現に慣れる場ではペアや少人数グループでの活動、多くの友達とかかわり自分と比較することをねらう場では、学級全体での活動とした。インタビューでは、ペア、少人数グループ、学級全体へとかかわる相手を徐々に広げた。

はじめにペアと少人数でのグループ活動を取り入れたことで、子どもは“What … do you like?” “I like ….”の表現に慣れることができた。少人数で時間に余裕をもって活動することができるため、相手の答えをじっくり聞くことを通して英語表現への「気づき」をもち、英語表現を広げることができた。その後、学級全体でたくさんの友達とインタビューを行った。この活動では、多くのかかわりから「～色が好きな人が多い。」など学級全体の傾向についての自分なりの「思い」をもっていた。

一方、好きな季節の理由を紹介する活動では、友達が話す内容を一つ一つ聞き、友達の思いを理解するために、3、4名の少人数グループを取り入れた(資料3)。グループ単位でのスピーチでは、自分の好きな季節とその理由を話すことができ、聞いている子どもも、相手が話す内容を理解しようとしながら聞いていた。この活動後のふりかえりでは「みんなが、(好きな)理由を分かってくれてうれしかった。」「上手にりゆうを言えたのでよかったです。」など自分の英語が伝わった満足感を伴うものが見られた。また、「ちょっと(自分の)理由がへんかなと思っていただけ、みんながなっとくしてくれてよかったです。」といった感想もあった。時間をかけてじっくり聞き合える少人数グループが他者理解には有効である。



資料3 少人数グループで説明する姿

## (2) コミュニケーション活動の工夫

### ① インタビュー「好きな物インタビュー」

「自こしょうかい(わたしのすきなもの)」では、2年生までの既習表現を使って、好きな色、スポーツ、季節をインタビューする活動を行った。

この活動では、好みが自分と同じかどうかを比較する中で、相手への「思い」をもつことをねらった。好きな色のインタビューでは、「同じ友達が何人いるか」を、好きなスポーツや食べ物のインタビューでは、「同じ友達はだれか」を見つける活動を行った。「自分と同じ」をキーワードにしたことで、子どもは、たくさんの友達とかかわろうと積極的にインタビューを行っていた。好きな色のインタビューでは「自分と好きなオレンジが多かったのでうれしかった。」「好きな色が同じ人が2人しかいなくてざんねんでした。」など人数

<好きな色インタビュー>名前 ( )

好きな色が同じ友だちは何人いるかな?

自分の好きな色 (オレンジ色)

オレンジ	神村君
赤	
青	
緑	
黄	
紫	
白	
黒	
その他	

実施日 4月19日 (Fri)

今日の英語で学んだこと  
色の違いが分かりましたか  Yes  No

友だちに好きな色をついてもらいましたか  Yes  No

友だちの好きな色が分かりましたか  Yes  No

今日の英語の振り返りをしよう。

わたしは好きな色がオレンジ色で、とても好きです。

資料4 人数を書き込めるようにしたワークシート

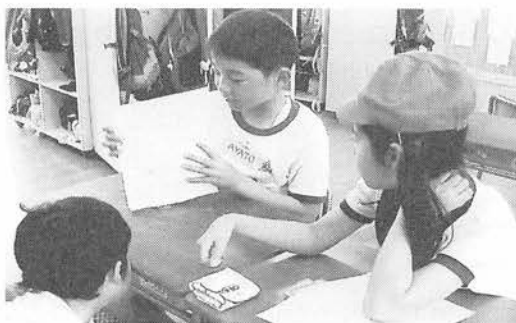
<好きな季節をしようかいしよう> 5月17日 (Fri)

名前 ( )

好きな季節 spring / summer / fall / winter

I like the ocean.	summer I'm going to Italy.
I like insects.	and ice cream

資料5 好きな季節紹介のイラスト



資料6 イラストを使った季節紹介

にかかわるふりかえりが見られた(資料4)。また、好きなスポーツのインタビューでは「いろんな人の好きなスポーツが知れてよかった。」「自分がやったことのないスポーツもあったのでやってみよう。」などに内容にかかわるふりかえりが見られた。「自分と同じならいいな。」という願いや「あの人は同じだろう」という予想をもってインタビューすることで、自他を比べて「思い」を持っていた。

既習事項をもとにしたインタビュー活動であったが、一回目の色では使用する単語を限定し、二回目のスポーツでは例示したスポーツに加えて自分が本当に好きなスポーツを扱った。段階的に活動の難易度を高めたが、スポーツを表す表現は外来語として身近になっているものが多いため、初めて聞いた表現でも生活経験とつなげて理解していた。

### ② スピーチ「私の好きな季節」

好きな季節を紹介する活動では、好きな理由を比べながら季節についての「思い」を持つことができるように少人数グループでのスピーチを取り入れた。好きな季節が同じであっても、その理由を比較することでこれまで持っていたイメージを広げたり深めたりすることができると考えたからである。

スピーチの準備では、電子辞書を使って英単語を調べたり、ALTやHRTに質問したりしながら、言いたいことを伝えるための英語表現を増やしていた。また、スピーチの練習では、好きな季節とその理由を考え、「(Because,) I like ...」の表現に、理由となるものをあてはめて伝えていた。

この活動では、好きな理由を表すイラストを描き、スピーチで使用することにした(資料5)。子どもは、友達にイラストを見せながら自分の好きな季節とその理由を言うことができていた。聞いている子どもは、イラストを見ながら、理由となる英語表現を理解することができていた(資料6)。子どもは、他が使う英語表現を視覚情報からこれまでの経験や知識をつなげて理解することができていた。新たな英語表現に気付くために、視覚情報が有効な手だてになった。

イラストを使って理由を伝え合うことで、好きな季節が同じでも、その理由がそれぞれ違うことから自分と他とを比較することができた。よって、視点の違いから季節の違いについて改めて認識することができていた。

### ③ タスク活動「わたしの誕生日」

「わたしの誕生日」では、言いたいことが伝わる英語表現に気づき、適切な英語表現を選択することができるように自分の誕生日を紹介するクイズ作りをした。

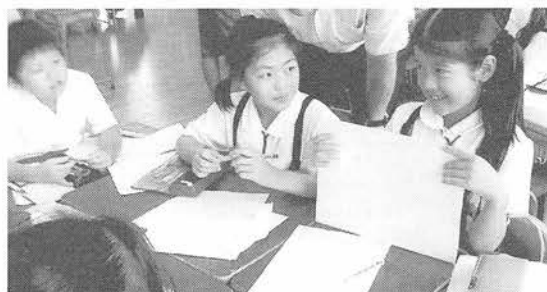
子どもは事前に考えてきたクイズをもとにして誕生月のクイズを作る作業やグループでクイズを試して使用する英語表現や内容について相談していた。この活動を通して、相手に伝わる英語表現や内容について互いの考えを聞き合った。スリーヒントという制限を設けたことにより、そのヒントがふさわしいかを相談する必然性が生まれた（資料7）。

誕生日を紹介するクイズを作った後、学級を月別グループ単位の6グループに分けて、試しのクイズを行った。この学習では、互いの英語表現のよさや紹介する内容を比較することを通して、自分たちのクイズが相手に分かりやすいものであるかを考え、改善点を見つけることをめあてとした。



資料7 ヒントを相談している様子

子どもは、互いのクイズに興味をもって楽しんでいった。その中で「ヒントが難しい。」とか「すぐわかった。」といった相手の反応から、作った問題やヒントが適切であったか、そのヒントがよかったかを判断することができた。一方、英語表現だけ補足するものとして答えのイラストを描いてクイズを行った（資料8）。しかし、イラストがあることで答えが分かってしまい、相手の話す言葉を集中して聞く必要感がなくなってしまう場合もあった。好きな季節の紹介では、プラスに作用したイラスト（視覚情報）が、今回はマイナスに作用してしまった。



資料8 イラストを使って出題している様子

「気づき」を持つには、言語のやりとりを中心に据えた活動を組んでいくことが不可欠であり、音声表現を介して、比較していくことが関係づけに重要な要素となる。その支援として視覚情報をどのタイミングで取り入れるかが大切である。

### (3) 「英語表現への気づき」や「異文化や他者への思い」の明確化

#### ① ワークシートの工夫(自己評価, 他者評価)

誕生日クイズを試す学習では、自分のよさに気づき、他のよさを自分の表現に取り入れるため、1自分のクイズはうまく伝わったか？（ヒントが分かりやすかったか？）2友達のクイズのよかったところはどこか？を評価するワークシートを準備した。1では、伝わったかどうかを3段階で自己評価し、その理由をメモさせた。また、友達のよかったところや取り入れたいと思ったところをメモできるようにした（資料9, 10）。

誕生日クイズをためそう 2013/7/5 (Fri)

NAME ( )

自分のクイズはうまく伝わったかな？	◎○△	メモ
ヒント1	◎	ならた英語をだたか
ヒント2	○	わかった人も、わかっていない人も
ヒント3	○	い
答え	△	全員わからなかった

資料9 クイズについての自己評価メモ

子どもは、友達のクイズやヒントのよさを見つけることができていたが、自分のクイズが伝わったか、分かりやすかったのかについて客観的に判断することは難しかったようである。多くの子の自己評価が「よく伝わった。」「はっきり言えた。」というものであったが、その理由は明確ではなかった。しかし、中に

友だちのクイズはどうだったかな？

名前	よかったなと思うところ・まねしてみたいこと
●さん	すごくわかりやすかったのでいいと思いました
●さん	すごく大きな声でいいでした
●さん	わかりやすい声でできなかつた
●さん	お礼のかけがよかった
●さん	

資料10 友だちのクイズについての評価

は「ならった英語だったから◎」というものがあつた。伝わつたと考える根拠について明らかにできるワークシートの工夫や教師の問いかけが必要である。

一方、友達のクイズのよさについては、「大きな声だった。」「言い方がじょうずだった。」「聞きやすかつた。」という評価が多かつた。はっきり言えているかに子どもの意識が向いていたと考えることができる。教師が意図した「分かりやすいヒントを出すことができたか」という自己評価にはならなかつたが、子どもにとっては、よく聞こえたかどうかが必要感のある評価項目であつたと言える。中には「ヒントが分かりやすい言葉（英語）だった。」「2つ目と3つ目のヒントをつなげると答えが分かつた。」などヒントの構成や内容に触れている評価もあつた。全体でのシェアリングの際に、このような観点でふりかえりを行っている子どもを意図的に指名することで、子どもの気づきやふりかえりの観点を全体に広げることができると思つた。

## ② ふりかえりの工夫

「わたしの誕生日」はグループでクイズを作り直した後、自分の誕生日と他の月との共通点や類似点、相違点を見つけることをねらつて、再度、学級全体でクイズを行った。この活動では、ふりかえりシートに、クイズを通して感じた「思い」を記述できる欄を設けた（資料11）。

1 生まれた月のことが伝わりましたか  / N  
2 友だちの月のことがわかりましたか  N  
3 今日の勉強で思ったことを書きましよう  
一年には、いろいろな行事などがあると分かりました。

1 生まれた月のことが伝わりましたか  / N  
2 友だちの月のことがわかりましたか Y /  N  
3 今日の勉強で思ったことを書きましよう  
クイズが面白かったです。

資料11 クイズ後のふりかえり

この活動では、ふりかえりシートに、クイズを通して感じた「思い」を記述できる欄を設けた（資料11）。

ふりかえりには「(他の月の) いろいろ思ひもしなかつたことがわかつてよかつた。」「一年にはいろいろな行事があると分かりました。」「みんな月がちがうんだな（月によってちがうんだな。）と思ひました。」「4, 7, 8, 10月のことが分かつたのでよかつたです。今度はまだやっていない月のクイズをしたいです。」などクイズを通して、これまでの認識を広げるふりかえりが見られた。

その一方で「クイズが楽しかつた。」「ヒントがむずかしかつた。」「もっとかんたんなクイズをつくつてみたい。」などの感想も見られた。これは、ふりかえりシートの問いかけが、「今日の勉強で思ったことを書きましよう。」であつたことに起因する。「自分のうまれた月と友達のうまれた月をくらべて気づいたことを書きましよう。」など、本時のねらいにダイレクトに迫るふりかえりをさせる必要があつた。ふりかえりの観点をより明確に伝える工夫が必要である。

## ③ シェアリングの形態

誕生日クイズを試す学習では、「気づき」のポイントを明確にして英語表現を見直すことができるように、学級全体での中間評価を取り入れた。「生まれた月のことが伝わつたかな？」という教師の問いかけに、「ダメだつた。」「できた。」といった反応があつた。「伝わつた。」という子どもに、どんなヒントを出すかと伝わつたかを質問したところ、「形」「色」「食べ物」などの意見が出た（資料12）。これらの意見を板書した後に、各自でふりかえりをしたところ「自分では簡単なクイズだと思つていたけれど、みんな分らなかつたので、もっと分かりやすくしたい。」「伝わつていなかつたので、もっと



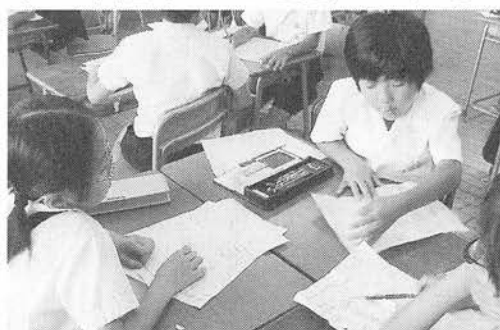
資料12 ポイントについての中間評価

英語を知りたい。」「意外にみんなが分かってくれてびっくりした。」など、自分の英語表現が足りなかったところや直したいところ、自分の英語が通じたことなど、英語表現について自己評価を行うことができた。全体のシェアリングでふりかえりの観点を共有したことで、個のふりかえりの基準ができたと考える。全体でのシェアリングにより、個々が英語表現を見直す必要性を感じていた。このことが、次時のクイズの作り直しにつながった。

#### (4) 自分の英語表現を見直す場の設定

##### 誕生日クイズの見直し

「わたしの誕生日」では、中間評価後にグループで考えた問題やヒントを見直して、もっと分かりやすいクイズに作り直した。試しのクイズを通して考えていた問題やヒントが伝わらなかったという思いや、自分たちのクイズに改善点があることが意識されていたため、問題の変更やヒントの選び直しなどを相談しながら行うことができていた(資料13)。



資料13 グループでのクイズの作り直し

また、分かりやすいヒントを日本語で考えることができて、それを英語でどう表現するかが分からないグループが出てきた。これらのグループは、ALTに英語表現を質問することで新たな英語表現を獲得することができていた。言いたいけど言えない状況により、他からの情報で英語表現を広げようとする姿が見られた。

## 5 成果と課題

### <成果>

- ・少人数グループやペアでの聞き合いでは、互いの英語表現や内容をじっくり聞くことができる。相手の言うことと自分とを比較しながら理解しようとしたり受け止めたりできるので、新たな気づきや自他への思いの再認識に有効である。
- ・コミュニケーション活動の内容を、自己紹介(好きなもの)や誕生日など自分にかかわるものにした。3年生の発達段階としては、自分のことを友達に分かってもらう題材がコミュニケーションへの意欲につながると言える。今後も、自己表現する内容を厳選していくことで他者理解や自己理解を深めることが可能となる。
- ・タスク活動などで、グループでの協働作業を取り入れることで目的意識が共有化されるとともに、互いの英語表現や内容を比較する必然性が生まれる。「言えないからなんとかしたい。」という状況をグループで克服する過程で、英語表現の吟味や内容の精選が行われ「気づき」が起こる。適度な負荷に対して、互いの知っている英語表現を聞き合う活動を取り入れるとよい。

### <課題>

- ・自己表現するためには、慣れ親しんだ英語表現だけでは十分ではない。また、子どもの力だけで、全ての英語表現を獲得することは困難である。英語表現をどのような形で獲得させるかについて、教師のかかわり方や電子辞書や絵カードなど教具の工夫が必要である。
- ・ふりかえりがあいまいであると、自分の学びを見つめることができない。単元や本時のねらいに合ったふりかえりの観点をワークシートに明記するなどの方法により明確に提示しなくてはならない。
- ・シェアリングでは、学級全体でポイントをはっきりさせた後に個々のふりかえりを聞き合う時間をとった。ワークシートに感想を書ける子どもは多いが、全体の場で思いを話せる子は限られている。グループでのシェアリングの回数を増やすなど形態の工夫が必要である。